

9 あき子さんの なつ休み

おかあさん、おげん気ですか。  
きょうは、おばあちゃんの おとも  
だちを むかえる じゅんびを  
手つだいました。  
おへやや げんかん、そして、ト  
イレも ぜんぶ きれいに しまし  
た。

さいごに にわに さいて いる

「へーテ。」  
モムンが よびました。へーテは  
びっくりして、モムンを見ました。  
「いっしょに にげよう。」  
「だって、くりの かわに ふたり  
は のれないよ。」  
「いや、にもつは すてるんだ。」  
二つの くりの かわの ふねは、  
こびとを ひとりずつ のせて、木  
の ねを はなれて いきました。



お花を げんかんに かざろうと したとき、おばあちゃんが、  
「あき子ちゃん、お花は 竹かごに いれてね。おわったら、  
うち水も して おいてね。」  
と いいました。

しばらく して、おともだちが きました。あいさつの あ  
と、

「そとは、とても あついのよ。でも、うち水を 見たとたん  
すずしく なって きたの。あらつ。お花も 竹かごに  
ぴったり。なつは、すずしげが 一ばんね。」

と、うれしそうに はなしました。

わたしが お手つだいした ことを おばあちゃんが はな

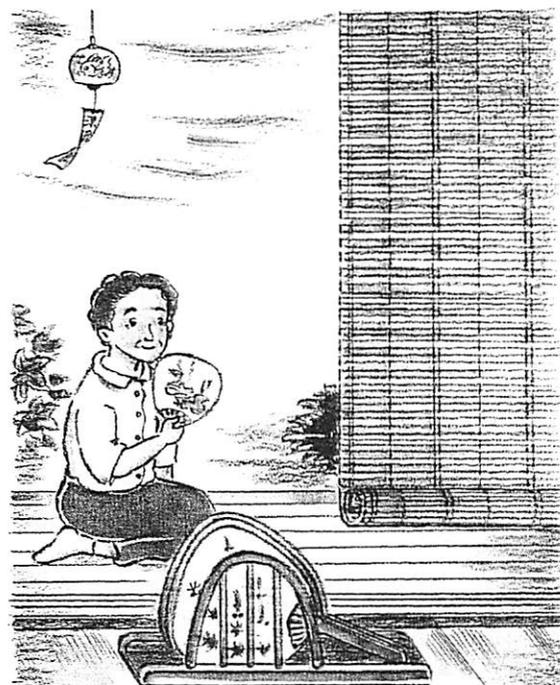
しました。すると おともだちが、

「あき子ちゃん ありがとう。あな  
たの おかげで、あつさが どこ  
かへ 行って しまったわ。そう  
そう あなたのおかあさんも  
子どもの ころ よく お手つだ  
いして いたわよ。」

と、はなして くれました。

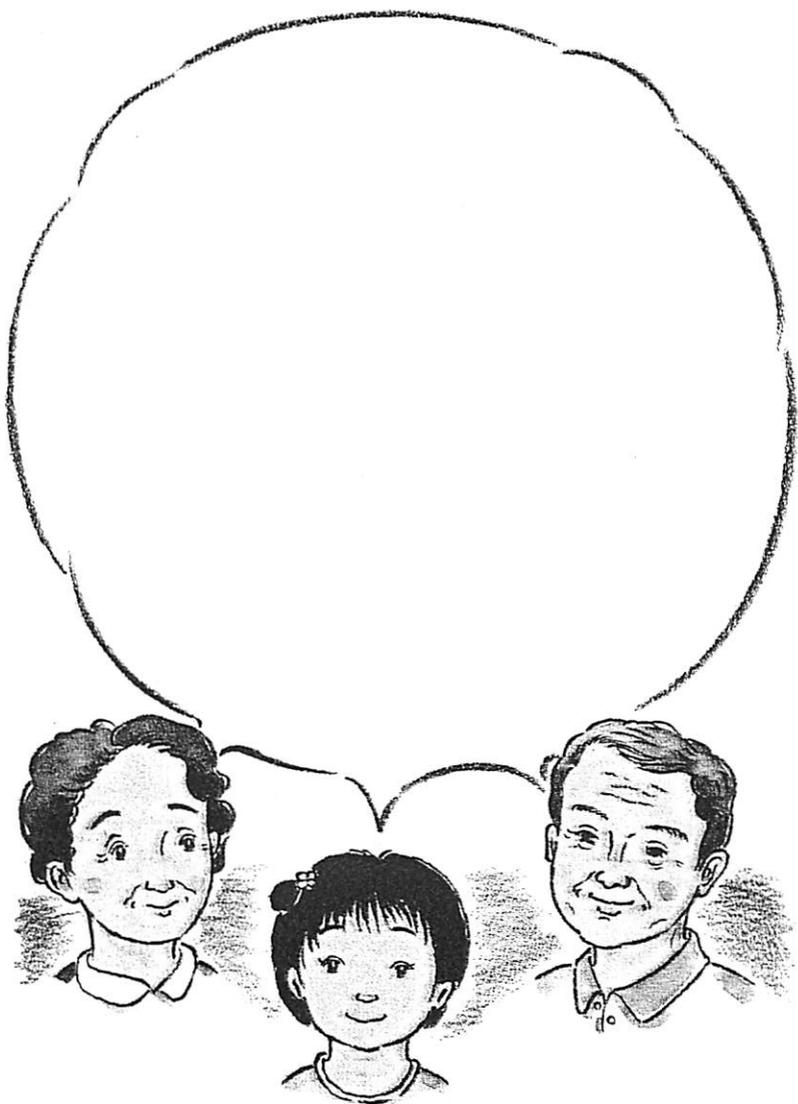
おかあさんが、なつに なるこ  
にわに うち水を したり、竹かご  
に お花を かざったり、クローラー





の ない おへやの ま  
どに ふうりんを さげ  
たり、竹の すだれを  
さげて いたのは、ぜん  
ぶ みんなの 気もちを  
すずしく して あげる  
ためだったのね、おかあ  
さん。

わたし、みんなの こころを にこにこさせる お手つだい  
を おばあちゃんから いっぱい おそわって かえります。  
それでは、おげん気で さようなら。



おうちでも こんな くふうが あったら かいて みよう。

## 9 あき子さんの なつ休み

4-② 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。(家族愛)

### ① 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

核家族化が進行している昨今、現代の家族の価値観は個々様々になり、家庭や地域の連帯感や絆は薄れ、親から子へ、子から孫へと伝えるべき文化や伝統を大切にすることをはぐくむ基盤もだんだん希薄になりつつある。

しかし、古くから我が国の人々の生活に生かされ残されてきた風物や習慣に親しんだり、ふれあったり、それらのよさについて感じ取ることはとても大切なことである。

そうすることによって、子どもたちの心の中にそれぞれの家庭にある文化的なものを大切にする心が芽ばえ、将来においても文化や伝統を大切にしたいという思いが培われることを願っている。

〈子どもの実態について〉

祖父母のころと比べると建築様式、生活用品などが改善され、生活スタイルも変わり、便利で快適な生活が送れるようになっている。その反面、今の子どもたちの生活では、四季折々の行事や風物があまり感じられなくなっている。

祖父母が子どもだったころ、クーラーなどがない時代にはどう暑さをしのいでいたのだろうか。家の人に話や資料を通して、生活の知恵を学んでほしい。これらを学習する中で自分の家に伝わる生活の知恵も発見するであろう。

〈資料について〉

本資料は古くから我が国の人々の生活に生かされ残されてきた風物や習慣である竹かご、うち水、風鈴、竹すだれなどを取り上げ、それらのよさについて子どもたちに感じ取ってもらおうと作成されたものである。

ここでは、あき子が夏休みに祖母の家で過ごして、見たり感じたりした夏の風物詩を、子どもなりの見方で母親に手紙で知らせている内容になっている。あき子が、今まで気がつかなかった夏の様々な習慣や品物が「みんなの心をすずしくする」ものだと感じ取っていく様子に共感しながら、ねらいが達成できるようにしたい。

### ② ねらい

父母、祖父母が大切にしてきた生活や文化に親しみ、進んで家族の役に立つことをしようとする心情を育てる。

### □ 板書

<p>おかあさん</p>  <p>にこにこ顔のあき子さん</p>  <p>・よろこんでくれてうれしい。 ・クーラーもいけど……。このころもすずしい。</p> <p>おばあちゃん、よろこんでくれるかな。 おともだちもきもちいいかな。 じぶんもすずしいな。</p> <p>いっぱいお手つだいをしよう。</p>	<p>なつのおうぶつし</p>  <p>あき子さんの なつ休み</p> <p>お手つだい おへや げんかんのそうじ トイレ お花……竹かご 水まき……うち水</p>
--	---

### ③ 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
(1) 竹かご、竹のすだれ、風鈴など（さし絵、又は実物など）を見て、感じたことを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんとき使用しているか、どんな感じがするか発表し、資料への興味・関心がもてるようにする。</li> </ul>
(2) 資料「あき子さんの なつ休み」を読み、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの生活と比べながら読めるよう助言する。</li> </ul>
① あき子さんはどんなお手伝いをしたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あき子さんの気持ちを話し合い共感できるようにする。</li> </ul>
・家のあちこちをきれいにしてお手伝い。	
・お花をかざったり、水をまく。	
② そのお手伝いをどんな気持ちでしたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クーラーや冷蔵庫などの便利さと比較して、自然を生かして涼しさをつくる日本人の知恵を感じられるようにする。</li> </ul>
・おばあちゃんがきくと喜んでくれる。	
・おばあちゃんのお友達が気持ちよくすごせたらいいな。	
・何だか自分まですずしくなって、気持ちがいいな。	
③ お客様のお話を聞いたあき子さんの心の中はどんなだったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お母さんに語りたくなったあき子さんの気持ちに共感できるようにする。</li> </ul>
・こんなにも喜んでくれて、本当にうれしいな。	
・心をすずしくするために、いろいろな工夫があるんだ。	
・クーラーもいいけど、こんなすずしさもいいな。	
④ あき子さんは、どんなことを考えながらこの手紙を書いたのでしょうか。	
・とっても気持ちよくて心がすずしくなったので、お母さんに教えてあげたいな。	
・うちへ帰ってからも、いろいろすずしくなるような工夫やお母さんのお手伝いをしたいな。	
(3) あき子さんは家に帰ったときどんなふうにするだろうか予想して活動してみる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室の中に実物を飾ったりして雰囲気づくりをする。</li> <li>・ 子どもの反応として、予想されるものをいくつか用意しておく。</li> </ul>
・風鈴やすだれなどを窓の所に取り付けてみる。	
・竹かごに花を盛ったりうちわを使ったりする。	
(4) 自分の家でも工夫していることを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の風物詩を、祖父母や両親など身近な人々から聞いておくようにはたらかけておく。（「道徳」P55 ワークシートを活用する）</li> </ul>
(5) 教師の話聞く。 (大事にしている風物や習慣について聞く。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風物や習慣にも関心をもち、家族の一員として実践意欲を高められるようにする。</li> </ul>